

知的面白さ、知的感動をもたらすために

見ていて「おもしろい授業」「すごい授業」がある。どのように構築するのだろうか。それがわかればいいのになあ。授業を組む上でいろいろ考える。その考えることをいくつか挙げてみることにした。参考になれば、幸いである。

1. 教材研究の中で

- 教材に精通する。
- 何を教えるかではなく、何を考えさせるかを考える。
- その単元に関わる既習事項を把握し、それを使えるような展開を考える。
- 理解しやすいように場面設定を工夫する。
- 当たり前と考えられていることを否定してみる。教材の視点を変えてみる。
- オープンエンドの授業を考える。
- 子どもたちが、できそうにないと思われることもやらせてみる計画を立てる。
- 失敗させる計画にする。失敗から問題点を見つけ修正させる。
- 計画を立てたら、これで子どもは、退屈しないかを考える。
- 早い遅いが出る場合、早い子を遊ばせないためにどうするかを考える。
- 全員参加の授業を考える。できる子も考える時間があり、できない子も考える時間がある。
- 全員を同時に動かすには、どうすればよいかを考える。全員活動の場面を多く取り入れる。
- 視覚的に捉え易いようにする。
- 子どもは、何を知らないかではなく、何を知っているかを考える。
- 子どもは、知らないから教えてやらなければいけないと考えないで、知っていると考えて、それをどう意識させるかを工夫する。

2. 授業の中で

- 発問に対する子どもの反応を予想する。特に問題のある子どもの反応を考える。
- 学習する目的をはっきりさせ、1時間、1単元の見通しを持たせる。
「今日は、これがわかればいいんだ。」と意識させる。
- 予想または仮説を立てさせる。「きっとこうなるだろう。」
- 生活と関連付けて、考えさせる。「あー、そうだったんか。」「あーそうか。」
- 子どもの発言を接続語、副詞等をつないでいき、話の方向性をコントロールする。
- 子どもの発言をどうやって全員に返していくかを工夫する。
 - ・賛成か反対かの反応ぐらいは常にさせるようにする。
- 板書で流れを明確にし、考えを整理する。

教材について精通すること。

指導内容を把握すること。(単元全体・学年全体・6年間を通して)

子どもの顔を思い浮かべながら授業を考えること。

授業者がその教材に感動すること。

同じ授業は、絶対はない。